

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300094		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター堀 (リンドウ)		
所在地	大阪市貝塚市堀1丁目2番6号		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2791300094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2791300094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年2月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの生活の中で、お客様一人ひとりに役割を持って頂き、楽しく生活して頂けるように支援を行っています。  
季節の行事も積極的に取り入れ、ホームの中でも季節感を味わって頂けるよう、スタッフ一同努力しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは年度ごとに目指す方向性を職員間で話し合い独自の理念を決めており、今年度は「思いやり 笑顔を大切に」と掲げ、利用者への対応や面会に訪れる家族、地域の方への笑顔での挨拶など、全職員が常に笑顔を意識した対応ができるよう取り組んでいます。介護計画の見直しの際には家族の面会時に合わせてカンファレンスを開き、家族と共に課題や利用者本位の支援について話し合っています。また家族の来訪時には利用者の様子を伝える中でコミュニケーションを図るように努めたり、家族会の開催時には運営状況や年間スケジュールの説明、スタッフの入れ替わりなど、家族の意見や不安に対して丁寧に説明を行い信頼関係の構築と共に家族の安心に繋げています。職員は積極的に意見や提案を出し合い、日々利用者本位のケアについて考えながら支援に取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り地に社是・経営理念を唱和し、実践に繋げるようにしている。	理念は毎年職員間で話し合っておいており、年度末には振り返りや確認を行い次年度の理念に繋がっています。今年度は「思いやり 笑顔を大切に」と掲げ玄関や事務所に掲示意識づけをしています。ケアの提供時や来客時に笑顔で対応ができていかなど日々の中やカンファレンスで伝え、確認しながら実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーに行ける日には、お客様と一緒に食材の買物に行くように心掛けている。ホーム近くにある地蔵さんまでの散歩は、ほぼ毎日の日課になっている。	町会に入り、ホーム前に来てくれるだんじりを見学したり、日々の散歩などで地域に出かけ挨拶を交わしています。隣家からはプランターの花が届くなど良好な近所付き合いを行っています。年に数回幼稚園児が遊戯の披露などで訪問し、手作りのプレゼントを用意するなど交流を楽しんでいます。また生け花や傾聴などのボランティアの来訪もあり交流が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	貝塚市介護者家族の会(貝塚市社協開催)に参加し、認知症の方に対する対応方法など、質問などがあつた場合に説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ず当ホームにて開催しています。市の担当者や家族様等の参加の元、活動状況を報告し、意見や要望をお聞きしたり、ホームでの問題点などを話し合っています。参加者人数が少ないのが今後の課題である。	会議は家族や市職員、時には高齢者の長生会会長などの参加を得て隔月に開催し、活動や事故報告、市の防災に関する研修内容の報告などを行い、意見交換をしています。参加しやすい日の設定を検討したりテーマによっては鍼灸師や薬剤師に来てもらい話を聴くなど、工夫しながら開催し運営に活かしています。	会議録は作成されていますが話し合われた内容を分かりやすく記録に残されてはいかがでしょうか。また民生委員や自治会関係者など地域からの参加が得られるよう引き続き働きかけられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。グループホーム連絡会があるので、相談・研修・連絡会などを行えるようになりました。	市担当者は運営推進会議への参加やグループホーム連絡会、高齢者の長生会の集まりにも参加を得ています。担当者とは関わる機会も多くホームの実情を知ってもらっており、協力関係を築きながら運営しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、全体会議等で研修を行っており、正しく理解した上でサービスにとり組んでいます。玄関の鍵は特に問題が無い限り、夜間以外は常に開いています。	身体拘束については入職時研修や年に1度ホーム会議の中でマニュアルを基に学ぶ機会を持ち職員に周知しています。ユニット出入り口や玄関は施錠は行わず、利用者の行動に危険が伴わなければ自由に過ごしてもらっています。また出かけた方には付き添ったり、一人で出かけた方には職員が後ろから見守り、拘束の無いケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、年1回勉強会を開催しています。		

ニチイケアセンター堀(リンドウ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議や勉強会にて、制度を理解する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び、重要事項説明書に沿って、相手が納得されるまで、分かりやすく説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として「雇用満足度調査」を行ったり、管理者を苦情等の窓口として、常に話しやすい環境作りを心掛けている。	家族の面会時には管理者やケアマネジャーが利用者の様子を伝えながらコミュニケーションを図り、意見を聞いたり、家族会や運営推進会議の中や法人による満足度調査などもあり、意見や要望を聞いています。家族からは率直な意見が出されて入り、職員間で内容を検討しサービスや運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と常にコミュニケーションを図り毎月の会議等で意見交換を行っている。	職員の意見は月に1度の全体会議の中やフロア毎に話し合う会議の際には管理者が議題を投げかけ全員に発言してもらっています。意見を受けて介護記録の書き方を改善したり、職員は行事や環境美化、食事などの委員会に携わっており、委員が中心となって発案し全員で実践に繋がっています。また管理者による定期と随時の面談も実施しており、職員の意見を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にはキャリアアップ制度を設けており、資格手当もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の段階により研修制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会に参加している。		

ニチイケアセンター堀(リンドウ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに必ずアセスメントを行っている。 ホームの見学等もして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学をして頂いたり、センター方式を活用し、家族様からご本人様の生活状況や家族様の要望などの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会を必ず行っている。 場合によっては他のサービスや事業所を紹介する事も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買物や、掃除洗濯、料理等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様とも信頼関係を築く努力をしている。 利用者が家族様と過ごす時間を大切に考え支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様とも相談しながら、入居前に馴染みされていた場所や知り合いの方との交流を支援している。	ホームでは家族も含めて友人や知人の面会を歓迎することを家族に伝えています。訪ねてきた友人と一緒に外出したり、在宅時の仲間が大勢で利用者訪ねて来られることもあり、ゆっくり会話が楽しめるよう場所を提供しています。また年賀状と一緒に手作りし、家族にも確認してやり取りができるよう支援するなどこれまでの関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が楽しくなるように、リビングでの座席の配置を考えたり、共通の話題を考えたりしている。		

ニチイケアセンター堀(リンドウ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去に全ての利用者、家族様にいつでも相談に応じる事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及び家族様からなるべく沢山の情報をお聞きしてケアに活かせるように努力している。	入居時に本人や家族から生活歴や暮らしの状況、希望などを聞いたり、家族に依頼し書いてもらった情報や利用していた事業所の情報などを基に意向の把握に繋げています。日々の様子などは介護記録に記載したり、アセスメントにも追記し、職員間で共有しています。家族から昔の話などが聞けた際には職員間で共有し、意向に添った暮らしに活かせるよう話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時のケアマネジャーさんなどから本人の了解の上、情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で情報交換を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成前に、必ずカンファレンス、モニタリングを行っており、家族様にも説明をし、納得の上サインを頂いている。	利用者・家族の思いやアセスメントの下、意向に添った介護計画を作成しています。入居当初は1ヶ月で見直し、その後は3ヶ月毎に利用者や家族にも確認しながらモニタリングを行い、状態に変化がない場合は6ヶ月毎に見直しています。見直しの際には家族の面会時に合わせてカンファレンスを開き、診療情報提供書の情報や訪問看護師などの意見も反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表、個別の介護記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応している。		

ニチイケアセンター堀(リンドウ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんや町会長さん、老人会さんに協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の連携のとれたかかりつけ医があり、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医を継続できることや協力医についても説明し、決めてもらっていますが現在は全員が協力医に変更しています。協力医は多くの日に来訪があり利用者は其々月2回の往診を受け、体調の変化等があれば随時診てもらっています。歯科や整形外科、皮膚科などは必要な方が往診を受け、定期的に受診が必要な方は家族が付き添っています。また週に1度訪問看護師が健康管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算にて訪問看護と契約を行い、体調管理を行って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院関係者及び主治医、家族様と連絡を取り、退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合について書類を交わしており説明をしている。	入居時に終末期をどのように過ごしたいかを考えてもらうように伝え、医療が必要となった場合は対応が難しく、他を紹介することを伝えていきます。意向を受けて主治医や家族と幾度も話し合う機会を作りながら支援に取り組んだ経験があります。その時の職員体制なども加味し、その都度話し合いながら対応する予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル・事故発生時マニュアル等で研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下、年2回の消防訓練を行っている。 運営推進会議でも議題に取り上げて、地域との連携に働きかけている。	年に2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、1度は消防署の指導の下実施しています。避難経路の確認や避難誘導、水消火器の使い方などを近所の方に来てもらい実施しています。管理者が防災に関する外部研修を受講し自主訓練に活かしたり、非常食などの準備をしています。また今後は自主訓練を増やしたり、地震なども想定し取り組みたいと考えています。	

ニチケアセンター堀(リンドウ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持を心掛け、プライバシーが守られるように配慮したケアを行っている。	入職時の研修やホームでも接遇について学ぶ機会を作り全職員に周知できるよう努めています。日頃は年配の方として敬意を払いお客様として対応するように伝えています。排泄時の声の大きさに留意したり、リビングに面したトイレにはカーテンを付けプライバシーに配慮をしています。不適切な対応が見られた場合はその都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の希望や意見を聞いたり、思いを引き出せるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者のペースを大切にしているが、充分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、好きな服を選んで貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすいように工夫をしています。準備や片付けなど出来る事は行って頂いています。	利用者の希望を聞きながら献立を決め、利用者と一緒に買い物に行くこともあり、包丁を使った下ごしらえなどできる事に携わってもらっています。誕生日会には出前を取ったり、なべ物や庭でのバーベキュー、ホットケーキ作りなど楽しめることを考えながら一緒に作っています。職員は利用者が楽しく食事を摂れるよう席に着き介助をしたり談笑し和やかな時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は介護記録に個別に記載している。 食事量・水分摂取が少ない時は、食事の間にプリンや牛乳など好みの飲み物を聞いて対応を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、個別に対応している。		

ニチイケアセンター堀(リンドウ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に対応している。定期的トイレでの排泄を行い、排泄リズムを整えるように行っている。	日々の個人記録から排泄のリズムを把握したり、排泄のサインを見逃さないように努め、個々に合わせて声掛けや誘導を行っています。失敗を減らし紙パンツから布の下着への変更など、排泄用品の使用も減らせるよう本人の状態の把握に努め、自立に向かえるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食品・乳製品などを取り入れている。運動・腹圧マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として個々にあった支援を行っている。	入浴は週に2~3回を目途に利用者に入ってもらい易い午後から夕方位の間に支援しています。気持ち良く入れるよう一人ずつ湯を入れ替えたり、季節の柚子湯なども取り入れ入浴が楽しめるよう支援しています。湯船に入れられない重度の方は寒い季節には足浴をしながらシャワー浴をしたり、入浴を拒む方には職員の交代や毎日声掛けを行うなど工夫しながら入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておらず、状況に応じた支援を行っています。又、身体に負担のあるお客様に関しては、昼寝の時間も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬局と連携を取りながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り役割を持って頂けるように家事などに参加して頂いている。又、レクリエーションなどを行う場合には、ご本人も一緒に手作りの物を作って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩、買物などは支援している。又、会話の中で本人様からの要望等があった場合には、ご家族様に協力を仰ぐ事もあります。	天候を見ながらほぼ毎日近隣の地蔵参りや散歩、スーパーへの買い物などに出かけています。初詣や季節の桜などの花見や外食行事に出かけたり、現在ヨーグルト工場の見学を予定しており、下見などの準備を行っています。またホームの広い庭に置かれたテーブルやベンチでバーベキューをしたり、外気浴などを楽しんでもらっています。	

ニチイケアセンター堀(リンドウ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整理整頓が常に出来ているように心掛けている。 空調温度もこまめに調整をしている。 毎月季節にあった飾りつけをしている。	共用空間は手作りの作品や利用者と毎月活かしているフラワーアレンジメントの花を飾り、利用者の季節感に配慮をしています。トイレのドアを色分けしたり、床にも目印があり利用者に分かりやすい作りになっています。また気候の良い時期は広い庭でバーベキューや外気浴などを楽しんでもらい快適に過ごせるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで座る位置については常に状況を考えながら変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべくご本人が馴染みの家具や布団などを持ち込んで頂くようにしています。	入居時には馴染みの家具や大切な物を持って来てもらうよう伝えていきます。テレビや自宅で使っていたサイドボード、家族の来訪時用の椅子や大切な仏壇などを持参し、家族と相談し過ごしやすいよう配置しています。また生活習慣に合わせてホットカーペットを敷いたり家族の写真や見やすいカレンダーなどを置き、安心して過ごせる居室となるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に名前を貼ったり、トイレも直ぐに分かるように表示されている。		